

# 対人援助専門職がクライアントに抱くスティグマ

## 一職種と疾病の差異に着目して一

○ 五百竹亮丞<sup>1</sup>・井川純一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>呉みどりヶ丘病院・<sup>2</sup>大分大学)

### 目的

クライアントに対して向けられるスティグマが、治療や社会復帰を阻害することが知られている。スティグマの低減には、クライアントとの接触体験が効果的という知見が認められている。一方で、接触体験の有効性は、スティグマの対象者と共通の目標に取り組む状況や、接触行為が賞賛される状況に限定される (Cook, 1985, Blanchard, Weigel, & Cook, 1975)。対人援助専門職にとって、クライアントとの接触体験は職務であり、上記の条件には該当しないため、一般市民よりも専門職の方がクライアントに対して強いスティグマを抱くことが指摘されている (Corrigan & Shapiro, 2010)。本研究では、専門職がクライアントに抱くスティグマについて、職種と疾病に着目した探索的検討を行った。

### 方法

**手続き** クロスマーケティング社に登録する405名の専門職 (介護福祉士135名、看護師136名、ソーシャルワーカー134名、平均年齢44.46歳、 $SD=9.43$ ) を対象に、Web調査を用いて行った。参加者は、“アルコール依存症 (Al) / 統合失調症 (Sc) / 病氣 (統制群 Cn) のAさんは再入院した”という3種類のシナリオ (被験者間要因) を読み、以下の質問項目に回答した。

**調査項目** 性別や年齢、勤務形態や勤続年数の個人属性に加え、Aさんに対するスティグマを測定するため、Link スティグマ尺度日本版12項目 (下津, 2006)、社会的距離尺度8項目 (星越ら, 1994) を用いた。また、Aさんに対するイメージの測定のため、特性形容詞尺度20項目 (林, 1978)、Aさんが再入院した原因を問うオリジナルの原因帰属評定項目11項目を用いた。

### 結果

**尺度の分析** 最尤法、プロマックス回転を用いた探索的因子分析によってそれぞれの尺度の因子得点を算出した。Link スティグマ尺度では、“不信頼 ( $\alpha=.82$ )”と“関係性忌避 ( $\alpha=.75$ )”の2因子、社会的距離尺度では、“地域生活関与 ( $\alpha=.76$ )”、“家族関与 ( $\alpha=.84$ )”の2因子、特性形容詞尺度は、“社会的望ましさ ( $\alpha=.85$ )”、“個人的親しみやすさ ( $\alpha=.83$ )”、“力本性 ( $\alpha=.81$ )”の3因子が抽出された。原因帰属評定項目は、外的帰属 ( $\alpha=.71$ )、内的帰属 ( $\alpha=.81$ ) に分類し因子得点を算出した。

**スティグマの比較** 3要因分散分析 (疾病・職種・性別) を用いて、各因子得点の条件間の差異を検討した。職種においては地域生活関与、内的帰属、外的帰属で主効果が認められた (Table1)。また、個人的親しみやすさ、力本性、不信頼、家族関与、内的帰属において疾病の主

効果が認められた (Table2)。上記の結果は、職種ごとにスティグマやクライアントへのイメージに有意差があることと、アルコール依存症へのスティグマが高いことを示している。

Table 1 職種間における各因子得点の差

	F	$\eta^2$	条件間の差
地域生活関与(社会的距離)	12.60	.06	** Sw(b),Ns(a),Cw(a)
外的帰属	3.52	.02	* Sw(b),Ns(a),Cw(ab)
内的帰属	10.74	.05	** Sw(b),Ns(a),Cw(a)

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

Table 2 疾病間における各因子得点の差

	F	$\eta^2$	条件間の差
個人的親しみやすさ(特性)	3.89	.02	* Al(b),Sc(ab),Cn(a)
力本性(特性)	3.78	.02	** Al(b),Sc(ab),Cn(a)
不信頼(スティグマ)	8.74	.04	** Al(a),Sc(a),Cn(b)
家族関与(社会的距離)	6.56	.03	** Al(a),Sc(ab),Cn(b)
内的帰属	15.81	.07	** Al(a),Sc(b),Cn(b)

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

### 考察

**職種間の差異** ソーシャルワーカーは他職種に比べ、クライアントの地域生活についてスティグマが少なく、再入院の原因について内的帰属をしていなかった。ソーシャルワーカーは職務として退院支援や地域移行など環境調整を担うことが多く、その過程でクライアントの地域生活について抵抗が少なくなると考えられる。また、看護師は他職種と比べ、クライアントが再入院した原因について有意に外的帰属をしていた。看護師は介護士やソーシャルワーカーと比較して医療的な視点を持ち、クライアントの心理的な動きよりも、再入院に至った過程や背景を重視している可能性がある。

**疾病間の差異** アルコール依存症は統合失調症や統制条件と比べて内的帰属得点が有意に高かった。アルコール依存症が、クライアントの性格的な問題であるとイメージが持たれていることは内閣府 (2016) の調査や大学生を対象とした先行研究 (五百竹・井川, 2017) でも確認されている。この特徴は対人援助専門職を対象とした本調査においても確認された。アルコール依存症のスティグマ対策は、一般市民だけではなく、専門職にも講じる必要がある。

### 引用文献

- Corrigan, P. W., & Shapiro, J. R. (2010). Measuring the impact of programs that challenge the public stigma of mental illness. *Clinical Psychology Review*, *30*, 907-922
- 五百竹亮丞・井川純一 (2017) 精神疾患のイメージ比較, 中四国心理学会第73回大会抄録集.